

# FLEXSCHE Analyzer 入門ガイド



# 目次

## Analyzer入門ガイド

FLEXSCHE Analyzer とは

プロジェクトを複製しよう

データを確認しよう

データキューブの構造

データキューブを生成しよう

ディメンションを定義しよう

フィールドを定義しよう

データキューブビューワーで確認しよう

データドライバを指定しよう

グラフを生成しよう

データキューブを生成しよう 2

ディメンションを追加しよう

データキューブビューワーの設定を変更しよう

グラフを生成しよう 2 (系列)

データキューブを生成しよう 3

フィールドを追加しよう

ルールを変えて評価データを確認しよう

フォーマットを指定しよう

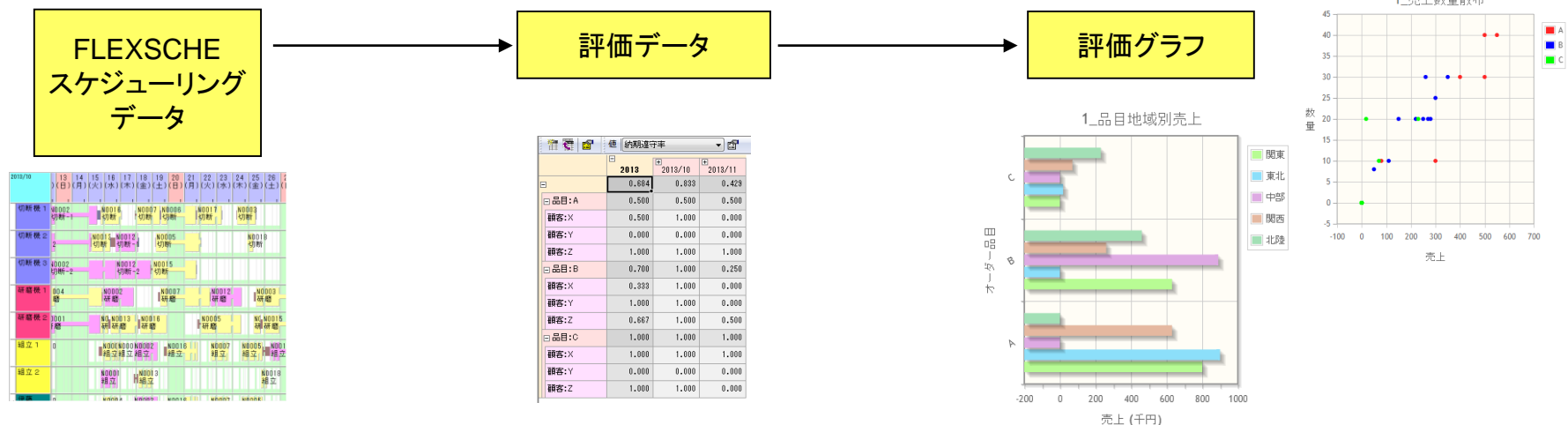
グラフを生成しよう 3

グラフのビジュアル設定をしよう

グラフを更新しよう

# FLEXSCHE Analyzer とは

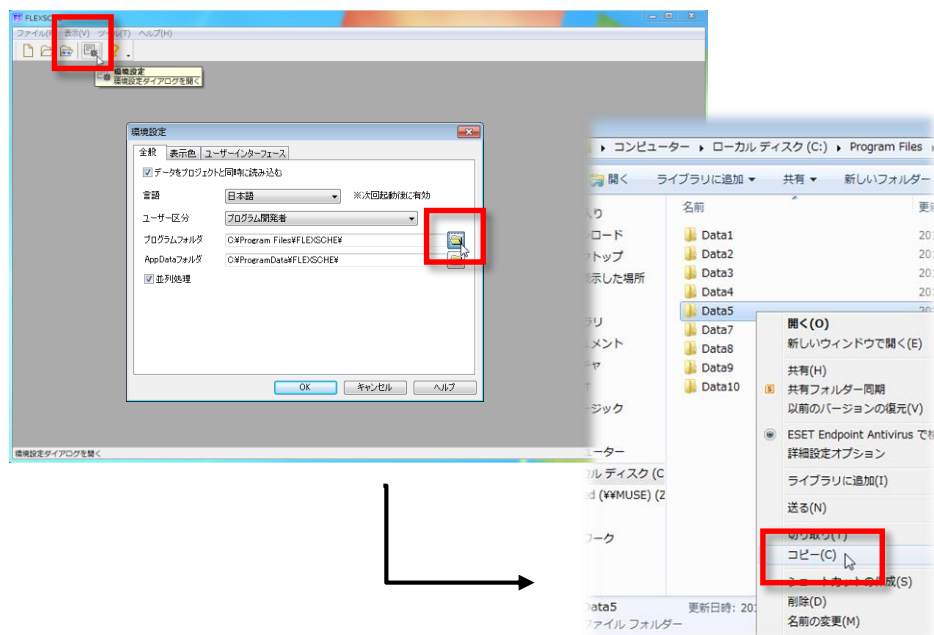
- FLEXSCHE Analyzer(フレクシェ アナライザー)は、FLEXSCHE GPでのスケジューリング結果をさまざまな切り口で集計的に処理し、スケジュールから任意の指標を抽出することで、その特性や傾向を分析 & 評価するためのオプション製品です。
- 集計値を表形式の画面で見たり、注目したい値をグラフに出力することができます。
- それでは、FLEXSCHE Analyzerを実際に体験してみましょう。
- ※ Analyzerでは、FLEXSCHEの計算式(takt式)を使用します。  
この入門ガイドでも計算式に関する知識が必要となりますことをご了承ください。



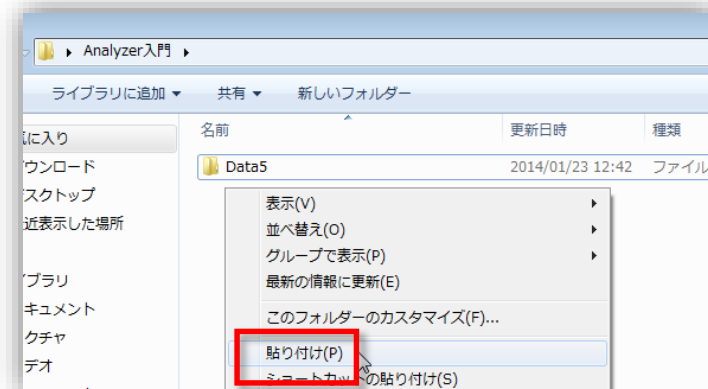
# プロジェクトを複製しよう

□ この入門ガイドでは、スケジューリング結果を分析するための元データとして、FLEXSCHEのサンプル「Data5」を用います。ここでは、「Data5」をフォルダごと複製して、コピーしたデータに手を加えていきます。

1 FLEXSCHEを起動したら、環境設定のボタンから「プログラムフォルダ」を開き、「Sample」→「FLEXSCHE GP」のフォルダを開いて「Data5」をフォルダごとコピーしてください。

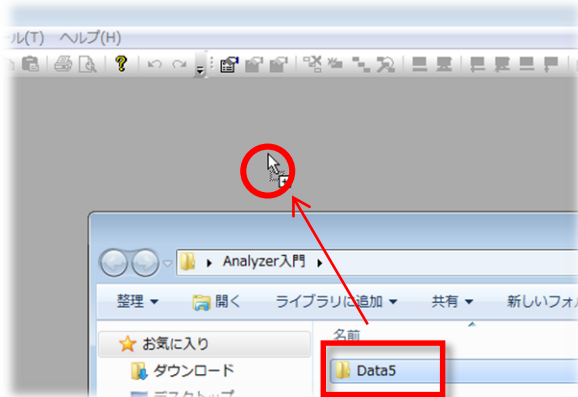


2 元のデータと区別がつくように、場所や名前を自由に決めてそこに「Data5」のフォルダを複製してください。ここではデスクトップに新しく「Analyzer入門」というフォルダをつくり、その中に「Data5」を貼り付けてみました。



# データを確認しよう

1. それではデータを開きましょう。  
先ほど開いたFLEXSCHEの「環境設定」画面を閉じてから、複製した「Data5」のフォルダをFLEXSCHE上にドラッグ&ドロップします。



2. 「オーダーデータ」を見てみます。  
このデータには、オーダーとして製造する品目が「製品A」「製品B」「製品C」の3種類あり、それぞれのオーダーには仕様として、出荷先が「US」「JP」「FR」の3種類指定されていることが分かります。

	*オーダーコード	*品目	*特	仕様	色
1	N0001	製品A	des	US/出荷先	FF6464
2	N0002	製品C	des	JP/出荷先	FAC832
3	N0003	製品A	des	FR/出荷先	FF9664
4	N0004	製品A	des	US/出荷先	A0ACF1
5	N0005	製品B	des	US/出荷先	529CE0

## ■この入門ガイドの目標■

この入門ガイドでは、それぞれの品目ごと出荷先ごとに、オーダーの数がいくつあるのか。また品目ごと出荷先ごとの納期遵守率がどれだけであるかを可視化し、それらをグラフで表現することを目標とします。

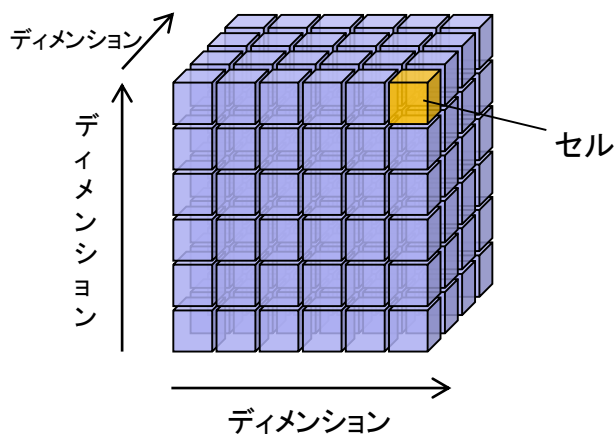
# データキューブの構造

この入門ガイドではデータの分析に、データキューブというものを使用します。  
ここではその構造を簡単に説明します。

データキューブは、多次元のデータの集合です。

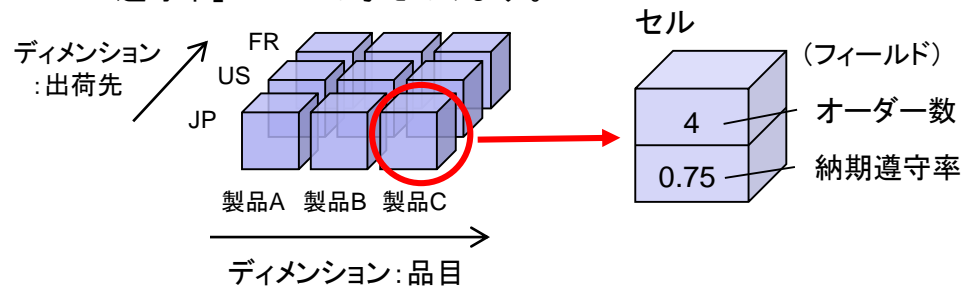
その構造の軸を「ディメンション」と呼びます。  
ディメンションは有限個の「メンバー」からなります。

各ディメンションのメンバーの交点にあたることを  
「セル」と呼びます。セルの中には複数の  
「フィールド」という値を持つことができます。



(3次元データキューブのイメージ)

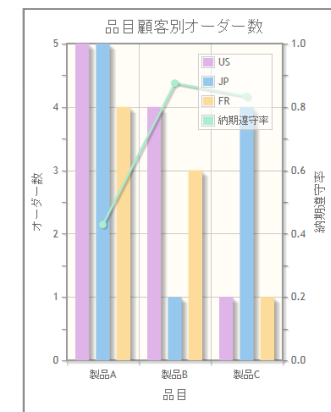
例として、今回作成する「品目別出荷先別のオーダー数、納期遵守率」について考えてみます。



品目ごと、出荷先ごとにデータを調べたいので、ディメンションは2軸必要です。  
「品目」という軸と「出荷先」という軸を用意します。  
それぞれのセルに対して（{製品A,JP},{製品A,US},...,{製品C,FR}など）  
「オーダー数」や「納期遵守率」など任意の個数のフィールドを持たせることができます。

このデータキューブをもとに、  
表やグラフでデータを可視化していきます。

	製品A			製品B			製品C					
	US	JP	FR	US	JP	FR	US	JP	FR			
オーダー数	14	5	5	4	8	4	1	3	6	1	4	1
納期遵守率	0.43	0.60	0.40	0.25	0.88	1.00	0.00	1.00	0.83	1.00	0.75	1.00



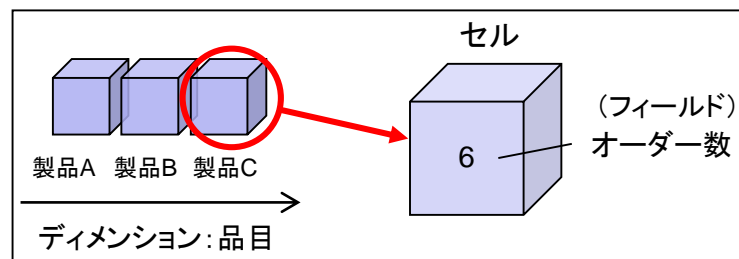
# データキューブを生成しよう

□ 第1のステップとして、品目ごとにオーダーの数がいくつあるかを調べることにします。

生成するデータキューブのイメージは右の通りです。

データキューブを生成するには、

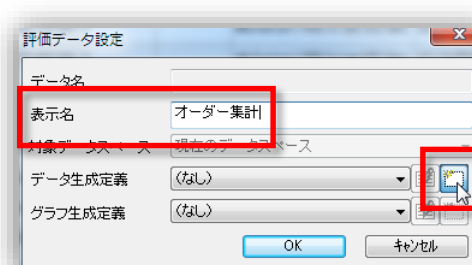
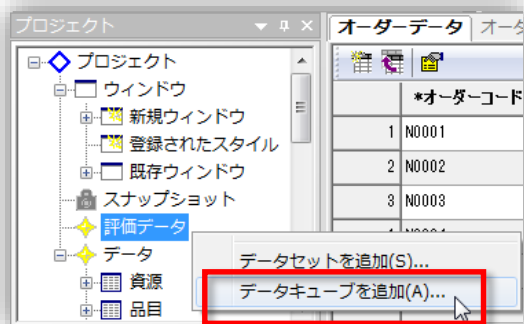
- データキューブの表示名
- データキューブの生成方法を定義した「評価データ生成定義」を設定する必要があります。



1. プロジェクトパネルの「評価データ」を右クリックして、「データキューブを追加」を選んでください。すると「評価データ設定」画面が開きます。

[表示名]は自由に設定できますが、今回は「オーダー集計」としておきます。

2. [データ生成定義]の右にある追加ボタンを押します。「評価データ生成定義」画面が開きます。



# ディメンションを定義しよう

「評価データ生成定義」画面では、データキューブの生成方法を指定します。

1. 名前を「オーダー集計」とします。  
さらに、データキューブの構造(「ディメンション」と「フィールド」)を定義していきましょう。

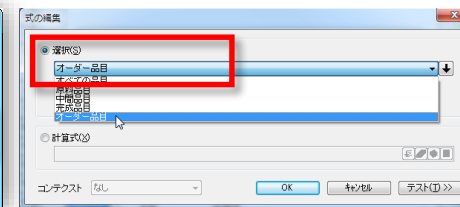
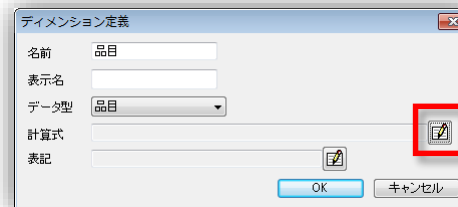
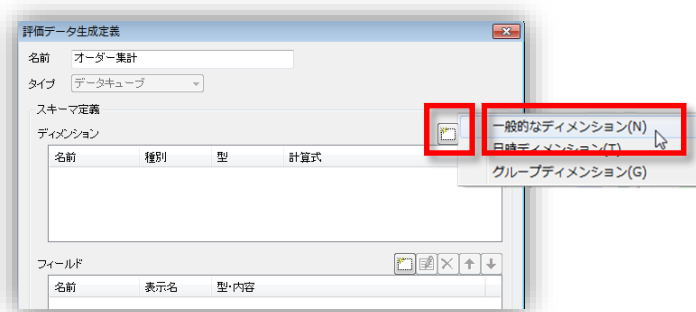
まずディメンションの定義を行います。

ディメンションを定義する際には、ディメンションのタイプと、ディメンションのメンバーを列挙するための計算式を指定します。

ここでは品目ごとにオーダー数を集計したいので、  
タイプを品目とし、さらに、各オーダー品目を抽出してディメンションのメンバーとします。

2. ディメンションの「追加」ボタンから「一般的なディメンション」を選びます。  
すると「ディメンション定義」画面が開きます。

3. 名前を「品目」として、データ型を選びます。ここではデータ型は「品目」です。  
計算式の編集画面で、「オーダー品目」を選んでください。  
{製品A,製品B,製品C}が抽出されます。

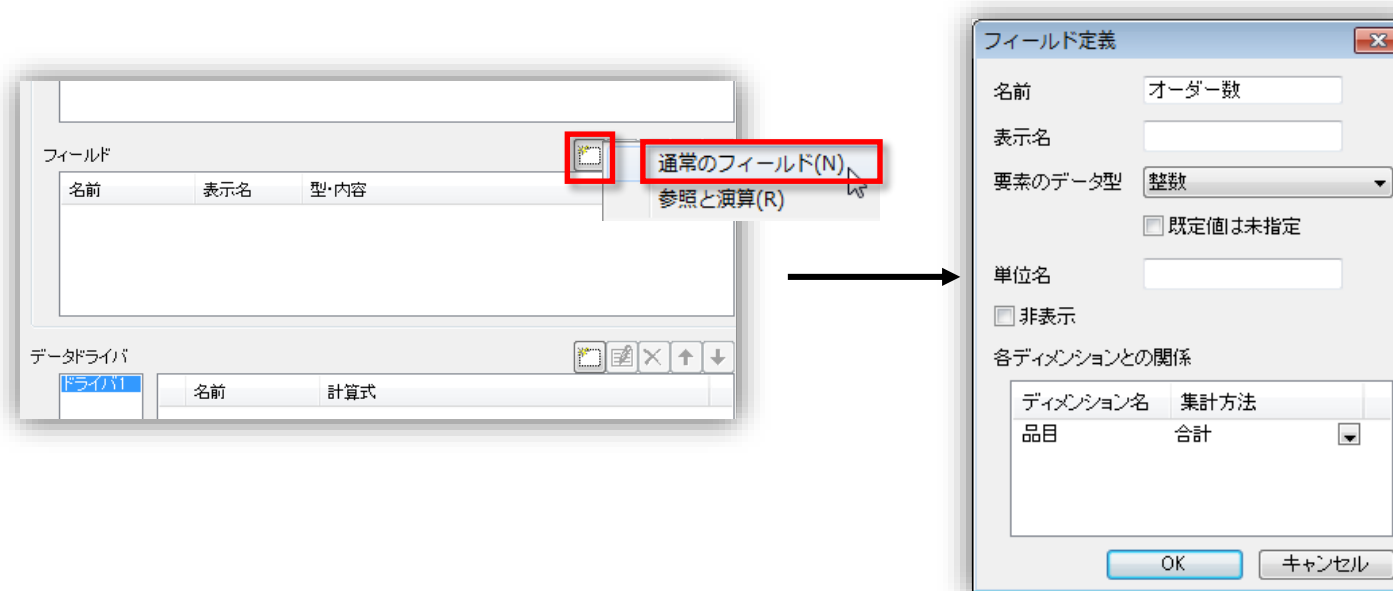


これでディメンションを定義できました。

# フィールドを定義しよう

続いて、セルに「オーダー数」フィールドを追加しましょう。

1. フィールドの「追加」ボタンから「通常のフィールド」を選びます。  
名前には、「オーダー数」と入力します。データ型は、オーダーの数なので「整数」を選びます。  
OKを押して画面を閉じます。

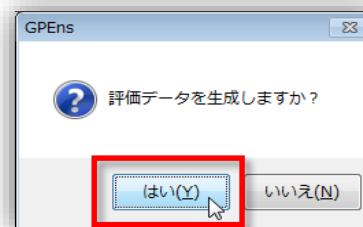


ここまでの設定で、データを格納するための入れ物ができました。  
このように、データキューブの構造を定義したものを「スキーマ定義」といいます。  
(※ 入れ物ができただけで値はまだ入っていません。)

# データキューブビューワーで確認しよう

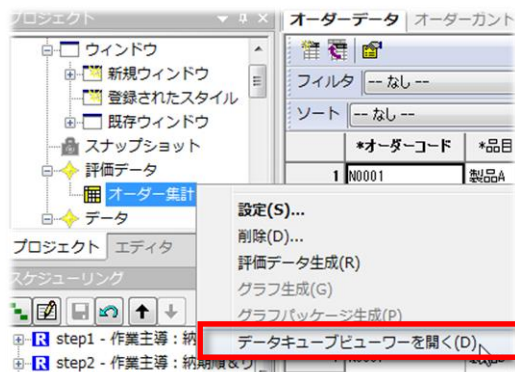
ひとまず、実際にどのようなものができているか見てみましょう。  
設定した定義から「評価データ」を生成する必要があります。これによってデータの実体がつくれます。

1. OKを押して「評価データ生成定義」画面を閉じてください。  
もう一度OKを押して「評価データ設定」画面を閉じます。  
「評価データを生成しますか？」と聞かれるので、「はい」を押してください。



それでは生成された評価データの内容を確認しましょう。  
「データキューブビューワー」を使います。

2. プロジェクトパネルの評価データのツリーを展開し、先ほど生成した「オーダー集計」というデータキューブを右クリックして、「データキューブビューワーを開く」を選んでください。  
横軸に品目が並び、縦軸にオーダー数と書かれた表が表示されました。  
値はまだ、全て0になっています。



	製品A	製品B	製品C
オーダー数	0	0	0

# データドライバを指定しよう

これから値の格納をしていきます。

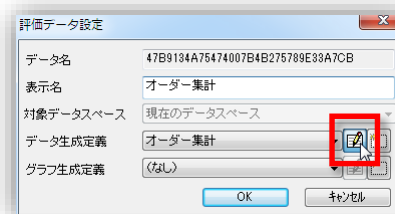
データの格納の仕方は、先ほどの評価データ生成定義の下の部分、「データドライバ」で指定します。

1. 「プロジェクトパネル」→「評価データ」→「オーダー集計」の上でダブルクリックして、データ生成定義の編集ボタンを押します。

データドライバでやることは、

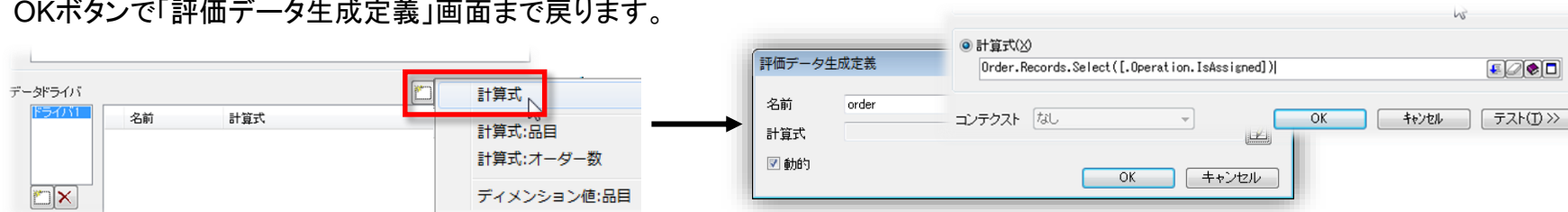
- ・各オーダーに対して
- ・品目ディメンション上の位置(セル)を抽出し
- ・該当するセルのフィールド「オーダー数」を +1 することです。

これを繰り返すことによって、品目別オーダー数を集計できます。



まず、各オーダーに対して処理を行うようにします。そのために計算式でオーダーリストを抽出します。

2. データドライバの追加ボタンから「計算式」を選んで、名前を「order」とします。計算式の編集画面で、`Order.Records.Select([.Operation.IsAssigned])` と入力してください。オーダーの最終工程が割り付いているものを全てリストアップします。OKボタンで「評価データ生成定義」画面まで戻ります。



これにより、これ以降のデータ生成処理はオーダーごとに繰り返し実行されることになります。

# 評価データ生成処理定義を指定しよう

3. 次に、各オーダーに対して、ディメンション上の位置(つまり品目)を指定します。  
 そのために追加ボタンから「計算式:品目」を選びます。  
 計算式の内容を \$order.Item とします。これによってオーダーの品目が特定されます。  
 \$order は、先ほど追加したオーダーリストの中の1つのオーダーを意味します。  
 名前に \$ をつけることによって、それより前に定義したものを参照できるようになります。

4. 最後に、セルの中の「オーダー数」フィールドを、オーダー毎に +1 します。  
 そのためには、追加ボタンから「計算式:オーダー数」を選んで、計算式に 1 と書けば良いです。  
 それだけで自動的に集計されます。

設定後のデータドライバは、  
 右図のようになります。

名前	計算式
D order	Order.Records.Select([Operation Is Assigned])
D 品目	\$order.Item
D オーダー数	1

以上でデータの値の格納の仕方を定義できました。  
 order でリストアップした各オーダーに対して、品目を特定して、そのオーダー数をひとつ増やす処理をしています。

OKボタンで画面を閉じて、先ほどと同じように評価データを生成してみましょう。

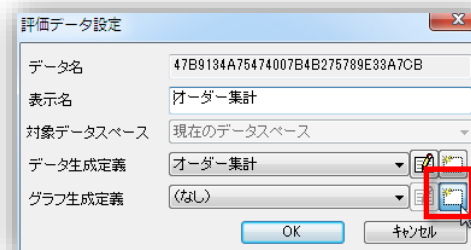
データキューブビューワーの表示が変わり、  
 品目別のオーダー数を集計できました。

	製品A	製品B	製品C
オーダー数	14	8	6

# グラフを生成しよう

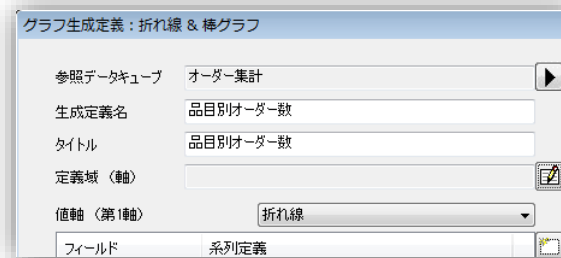
このデータキューブをグラフにしてみましょう。  
横軸を「品目」、縦軸を「オーダー数」とした棒グラフをつくることにします。

グラフを生成するには、グラフの生成方法を定めた「グラフ生成定義」が必要です。  
グラフ生成定義は「評価データ設定」画面から設定できます。



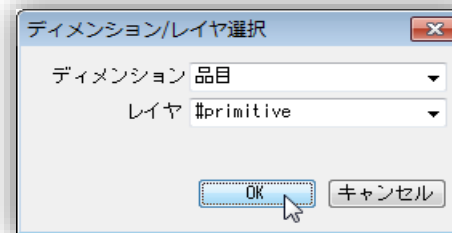
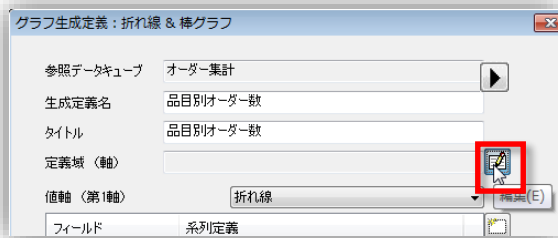
「プロジェクトパネル」→「評価データ」→「オーダー集計」をダブルクリックし、[グラフ生成定義]の右にある追加ボタンを押してください。  
生成するグラフの種類を選ぶことができます。

グラフの種類は[折れ線 & 棒グラフ]のまま、「次へ」進みます。  
グラフの[生成定義名]と、グラフの[タイトル]を適宜決めます。  
ここではどちらも「品目別オーダー数」としておきます。



グラフを生成する際には、まず、データキューブからデータを抽出するときにはじめに注目するディメンションを決める必要があります。  
そのディメンションのことを「定義域」といいます。折れ線 & 棒グラフではこれが横軸になります。

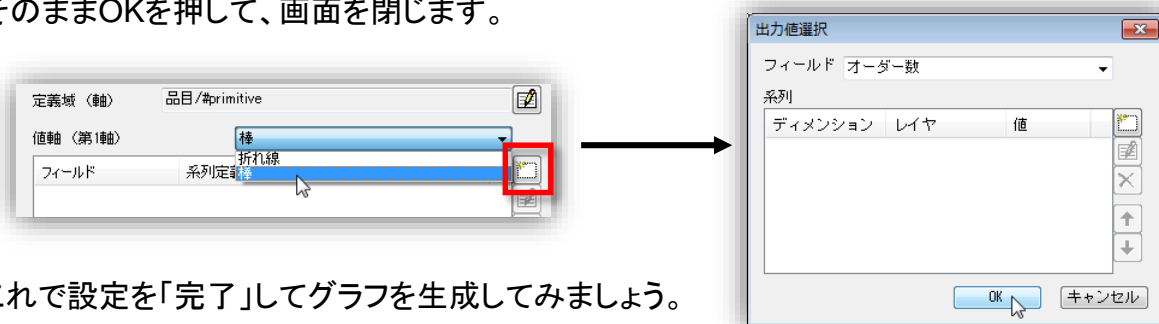
[定義域(軸)]の右にある編集ボタンを押して、「ディメンション/レイヤ選択」画面を開きます。  
ディメンションで「品目」を選んで、そのままOKボタンで画面を閉じます。



# グラフを生成しよう

続いて、グラフの値を決めます。折れ線&棒グラフではこれが縦軸になります。  
今回は「オーダー数」を縦軸にします。

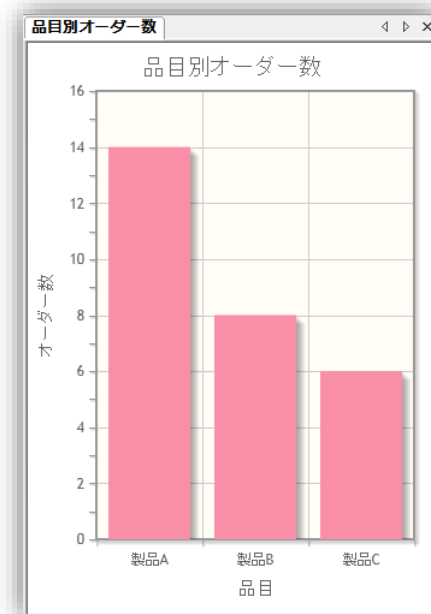
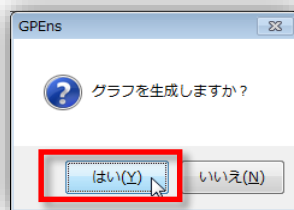
「値軸(第1軸)」を「棒」に変えて、追加ボタンからフィールドとして「オーダー数」を選びます。  
そのままOKを押して、画面を閉じます。



これで設定を「完了」してグラフを生成してみましょう。

先ほどと同じように「評価データ設定」画面でOKを押すと、「評価データを生成しますか？」と聞かれますが、評価データは変更していないので、どちらを選んでも構いません。

そのあとに「グラフを生成しますか？」と聞かれます。  
これに「はい」と答えるとグラフが表示されます。



□ これで第1のステップの目的であった、「品目ごとのオーダー数」を集計することができました。

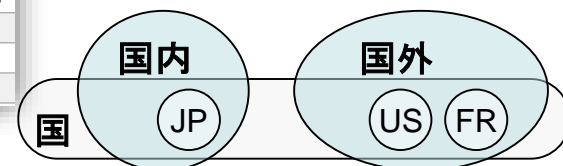
# データキューブを生成しよう 2

□ 第2のステップとして、品目ごと出荷先ごとのオーダー数を調べます。

出荷先の情報は、オーダーの仕様に設定されています。  
仕様の詳細な設定を確認しておきましょう。

1. メニューの「ツール」→「エディタ」から「仕様マスタ」を開きます。  
実は、出荷先の仕様は、  
グループとして右図のように階層化されていることが分かります。

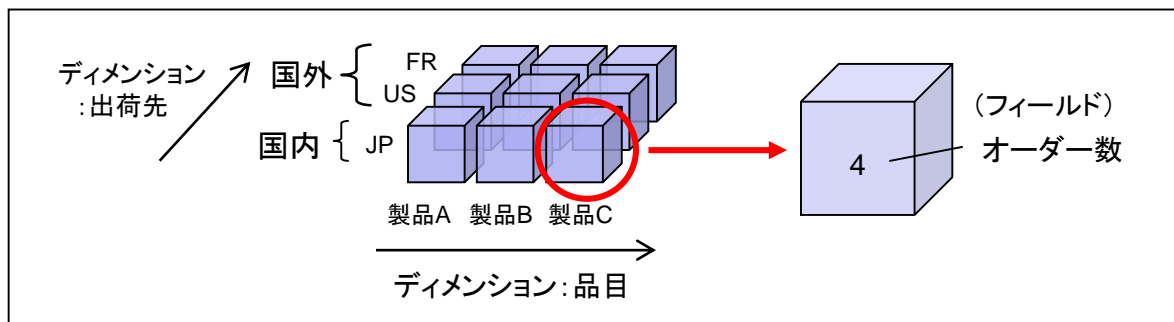
7	JP	No	国内;国
8	US	No	国外;国
9	FR	No	国外;国
10	国内	Yes	
11	国外	Yes	
12	国	Yes	



元のデータに階層があるとき、データキューブのディメンションにもその階層を持たせることができます。  
その階層のことを「レイヤ」といいます。

生成するデータキューブのイメージは下の通りです。

つまり、ステップ1で生成したデータキューブに、階層化された、「出荷先」というディメンションを追加します。  
「出荷先」の各メンバーは、「国内」グループと「国外」グループでも集計するようにします。



# ディメンションを追加しよう

それでは、ディメンションとそのレイヤの定義を追加していきましょう。

1. 「プロジェクトパネル」→「評価データ」→「オーダー集計」をダブルクリックし、  
[データ生成定義]の右にある編集ボタンを押してください。  
「評価データ生成定義」画面が開きます。

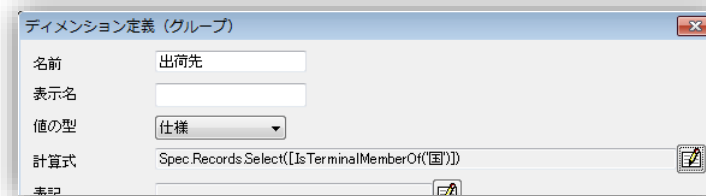
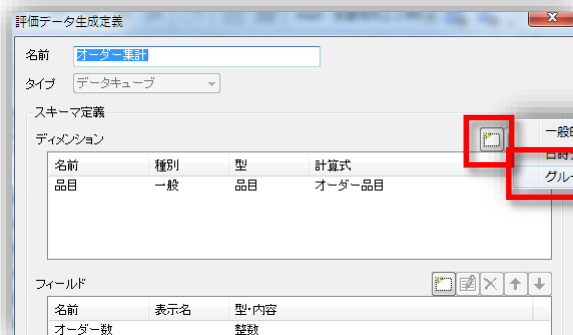
2. ディメンションの「追加」ボタンを押して、「グループディメンション」を選んでください。

名前を「出荷先」として、値の型を選びます。ここでは型は「仕様」です。

「国」という仕様グループに含まれるもののうち、グループフラグが立っていないものをディメンションのメンバーとします。

それには、計算式の編集画面で、Spec.Records.Select([.IsTerminalMemberOf('国')]) と入力してください。

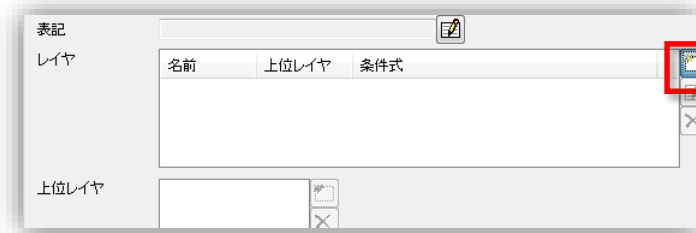
この式を実行すると、{JP,US,FR} という仕様のリストがとれます。これが出荷先ディメンションの各メンバーとなります。



# ディメンションを追加しよう

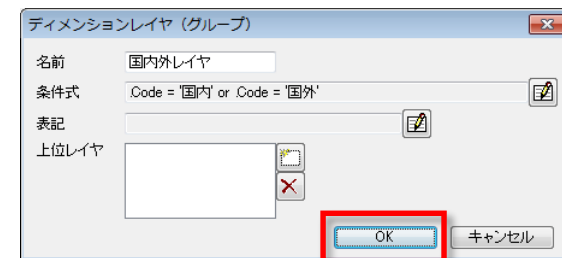
続いてレイヤの定義に移ります。

3. [レイヤ]の右にある追加ボタンを押してください。「ディメンションレイヤ(グループ)」画面が開きます。ここでレイヤを定義します。



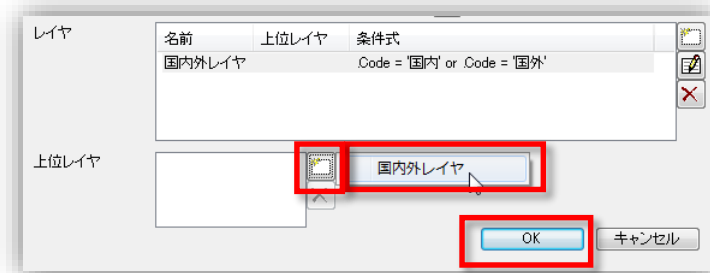
名前は自由に決められますが、ここでは「国内外レイヤ」としておきます。出荷先ディメンションのメンバーである {JP,US,FR} は、「国内」「国外」グループ、および「国」グループに所属しています。ここでは、どちらのグループをレイヤとするのか決める必要があります。

今回は「国内」「国外」グループをレイヤとしたいので、条件式に `.Code = '国内' or .Code = '国外'` と入力してください。  
(※ 所属する上位グループが1つの場合、条件式を指定する必要はありません。)



OKを押して画面を閉じ、「ディメンション定義(グループ)」画面まで戻ります。

4. [上位レイヤ]の追加ボタンを押して、出荷先ディメンションの上位レイヤとなるレイヤを選びます。ここでは「国内外レイヤ」が上位レイヤとなるので、それを選びます。



OKを押して画面を閉じてください。これでディメンションの構造が定義できました。

# ディメンションを追加しよう

フィールドはオーダー数のままなので、変更は必要ありません。

続いてデータドライバを指定します。

各オーダーに対してディメンション上の位置(セル)を抽出するときに、

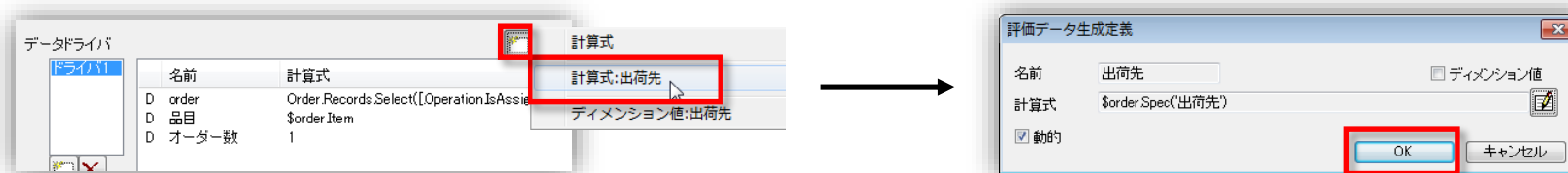
「品目」ディメンションだけでなく、「出荷先」ディメンションの位置も決めなければなりません。

計算式でそれを指定します。

5. データドライバの追加ボタンから「計算式: 出荷先」を選びます。

計算式の内容を、\$order.Spec('出荷先')とします。これによってオーダーの出荷先の仕様が特定されます。

OKを押して画面を閉じ、[評価データ生成定義]画面まで戻ってください。



生成処理の順番としては、品目と出荷先が特定されてから、オーダー数を加算する必要があります。

なので、生成処理定義の中の出荷先の列をクリックした状態で[↑]ボタンを押して、

order→品目→出荷先→オーダー数という順序になるよう並び替えてください。



これでディメンションの追加を完了しました。

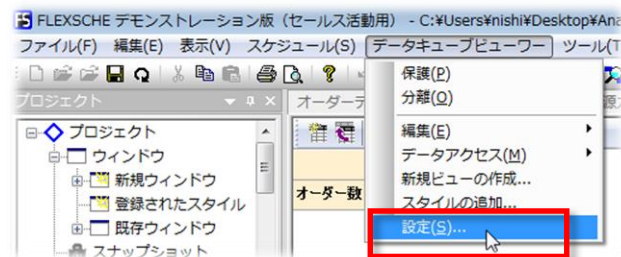
OKを押して画面を閉じ、評価データを生成してください。

ここではグラフは生成しません。

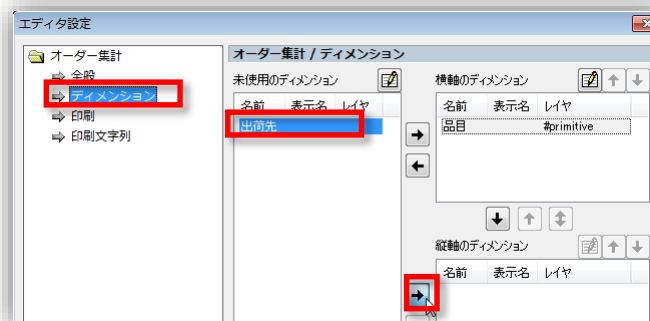
# データキューブビューワーの設定を変更しよう

データキューブビューワー(「オーダー集計」)を確認してください。設定した「出荷先ディメンション」が表示されていません。ここで表示設定を変更して、「出荷先」を縦軸に表示させましょう。

1. メニューの「データキューブビューワー」から、「設定」を選んでください。「エディタ設定」画面が開きます。その中の[ディメンション]タブでデータキューブビューワーの表示を変更します。



「出荷先」が、[未使用のディメンション]の枠の中にあると思います。それを選んでから[→]ボタンを押し、[縦軸のディメンション]の中へ移動させてください。



2. また編集ボタンから、[表示]の「国内外レイヤ」にチェックが入っていることを確認してください。これで「国内外レイヤ」がビューワー上に表示されるようになります。(※ [#primitive]とは、ディメンションの末端レイヤ、つまりディメンションの各メンバーのことです。)



	製品A	製品B	製品C
国内	5	1	4
JP	5	1	4
国外	9	7	2
US	5	4	1
FR	4	3	1

OKを押して設定画面を全て閉じてください。

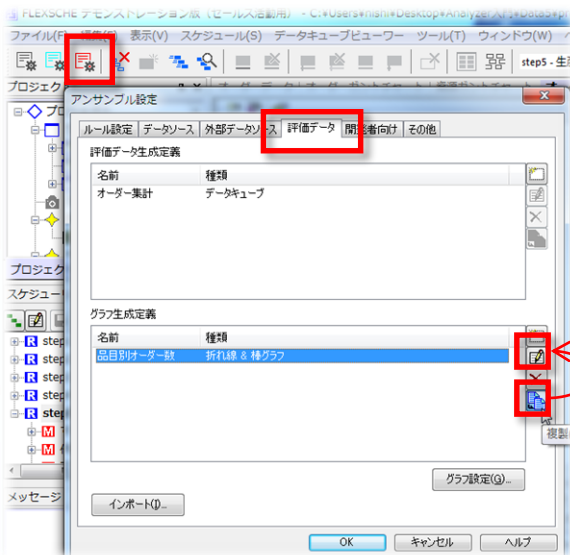
データキューブビューワーの縦軸のツリーを展開してください。画面上に、品目ごとと出荷先ごとのオーダー数を表示できました。

# グラフを生成しよう 2

このデータキューブを、新たにグラフにしてみましょう。

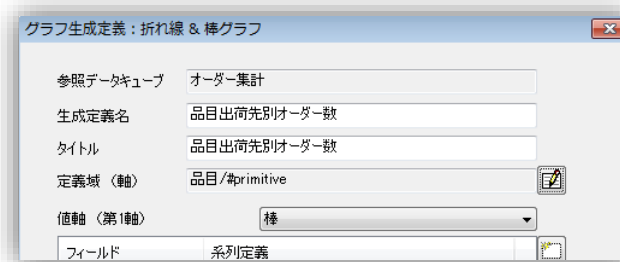
棒グラフで、縦軸にオーダー数を表示し、横軸には品目ごとに出荷先を個別のバーとして表示させるようにします。個別のバーは、グラフ生成定義の中で「系列」として指定します。

先ほど設定したグラフ生成定義を複製して、それに手を加えていきましょう。



1. まずツールバーの「アンサンブル設定」ボタンを押して、その中の[評価データ]を開きます。画面の下部部分に表示されている、グラフ生成定義の「品目別オーダー数」を選択し、右側の「複製」ボタンを押して定義を複製します。そのまま「編集」ボタンを押してください。直接[グラフ生成定義]画面が開きます。

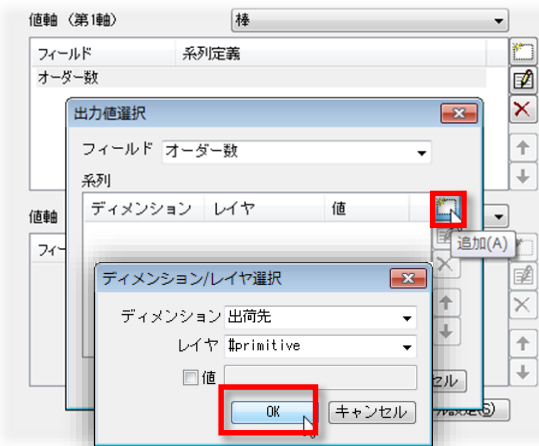
2. [生成定義名]を「品目出荷先別オーダー数」に変え、[タイトル]も同じように「品目出荷先別オーダー数」としてください。



# グラフを生成しよう 2

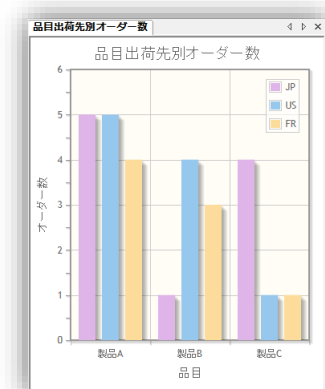
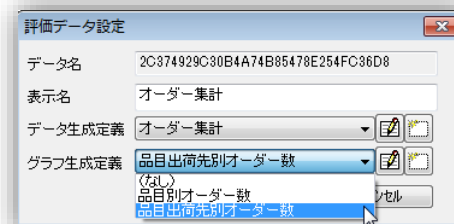
続いて、[値軸(第1軸)]として設定されているフィールド「オーダー数」の行をダブルクリックしてください。ここで系列を設定します。

3. 系列の追加ボタンから、ディメンションとして「出荷先」を選択します。  
レイヤは [#primitive] のままOKボタンを押して画面を閉じます。  
さらに「OK」→「完了」を押して「アンサンプル設定」画面に戻ってください。  
これもOKで閉じます。



それではグラフを表示させましょう。

4. 「プロジェクトパネル」→「評価データ」→「オーダー集計」から [グラフ生成定義] を「品目出荷先別オーダー数」に変えてOKを押し、グラフを生成してください。



各品目ごとに出荷先が個別の棒グラフとなって、オーダー数が表示されています。

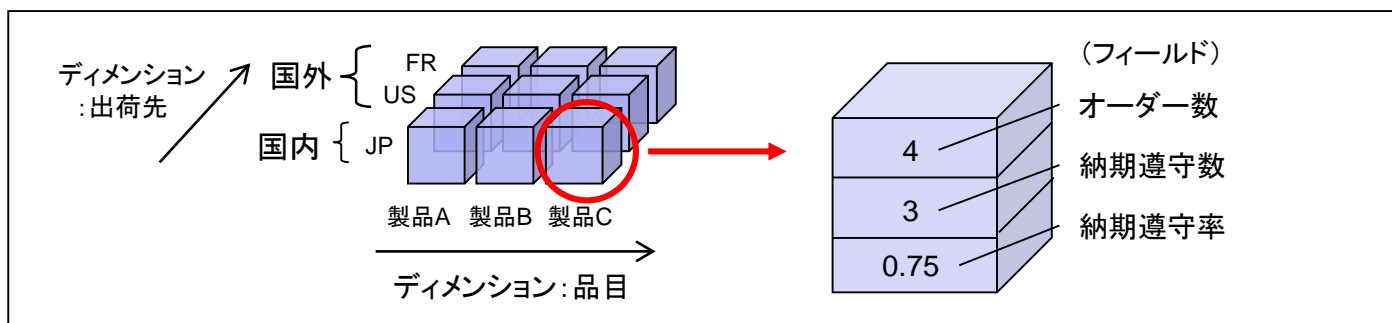
□ これで第2のステップの目的であった、品目ごと出荷先ごとのオーダー数を集計し、グラフに表示することができました。

# データキューブを生成しよう 3

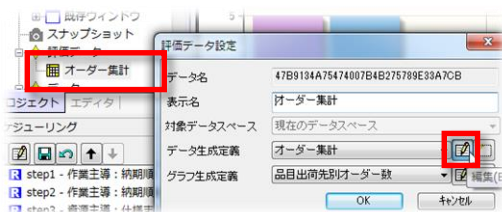
□ 最後のステップです。オーダー数だけでなく、品目ごと出荷先ごとに納期遵守数、納期遵守率も調べます。

生成するデータキューブのイメージは下の通りです。

ステップ2で生成したデータキューブに、「納期遵守数」「納期遵守率」というフィールドを追加します。



「プロジェクトパネル」→「評価データ」→「オーダー集計」の上でダブルクリックし、データ生成定義「オーダー集計」の編集ボタンを押します。

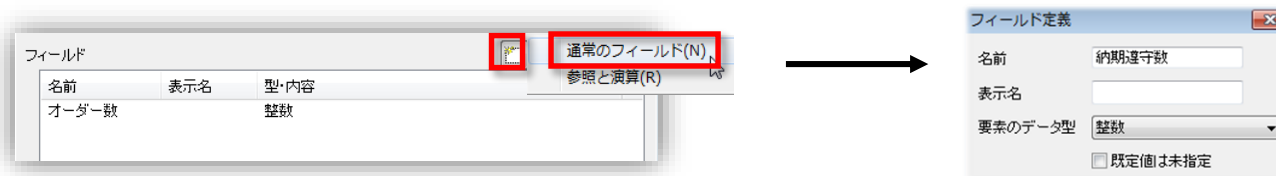


[評価データ生成定義]画面が開きます。

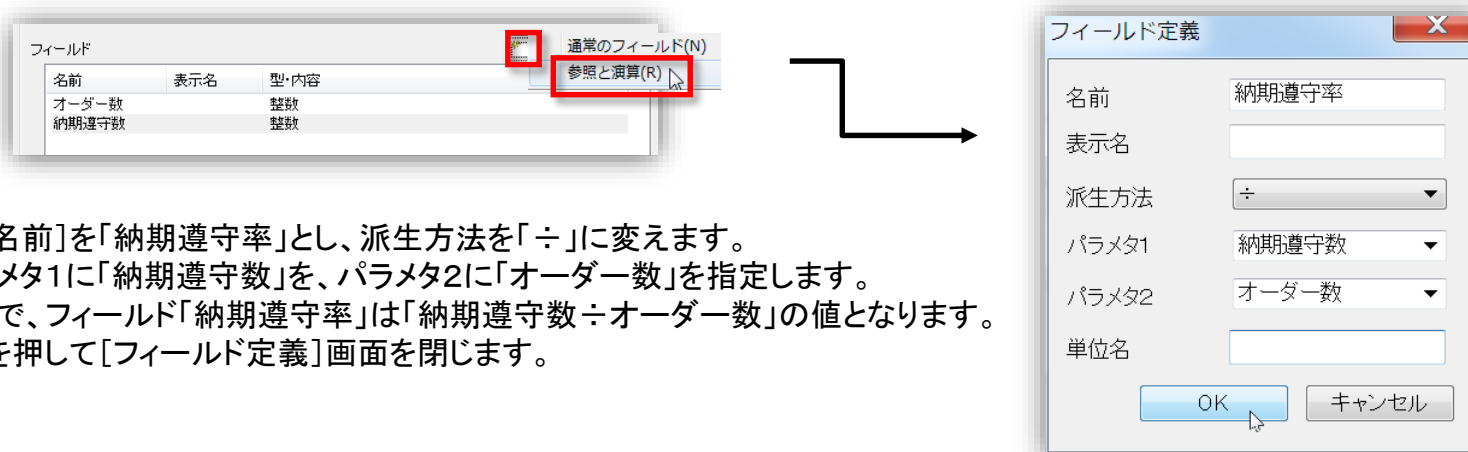
# フィールドを追加しよう

それでは、フィールドを追加していきましょう。

1. フィールドの追加ボタンから、「通常のフィールド」を選びます。  
名前を「納期遵守数」とし、データ型を決めます。オーダー数を追加したときと同じで、データ型は「整数」です。  
OKを押して[フィールド定義]画面を閉じます。



2. 次にフィールド「納期遵守率」を追加します。  
このフィールドは既に定義してあるフィールド「納期遵守数」を「オーダー数」で割ることによって計算できます。  
そこで、フィールドの追加ボタンで「参照と演算」を選びます。  
「参照と演算」のフィールドは、定義した他のフィールドに対して演算を行い、その結果の値をフィールド値とすることができます。



3. [名前]を「納期遵守率」とし、派生方法を「÷」に変えます。  
パラメタ1に「納期遵守数」を、パラメタ2に「オーダー数」を指定します。  
これで、フィールド「納期遵守率」は「納期遵守数÷オーダー数」の値となります。  
OKを押して[フィールド定義]画面を閉じます。

# フィールドを追加しよう

続いて、追加したフィールドに対するデータドライバを指定します。

まずは「納期遵守数」です。

4. 追加ボタンから「計算式:納期遵守数」を選びます。

作業の製造終了日時がオーダーの納期よりもはやければ1を加算し、そうでなければ何もしないようにします。

計算式に、`$order.Operation.ManufactureEndTime <= $order.LatestEndTime ? 1 : 0`と入力してください。

データドライバ

名前	計算式
D order	Order.Records.Select([Operation.Is Assigned])
D 品目	\$order.Item
D 出荷先	\$order.Spec('出荷先')
D オーダー数	1

計算式: 納期遵守数

評価データ生成定義

名前: 納期遵守数

計算式: `$order.Operation.ManufactureEndTime <= $order.LatestEndTime ? 1 : 0`

動的

OK キャンセル

OKボタンで「評価データ生成定義」画面まで戻ります。

次に「納期遵守率」ですが、

「納期遵守率」は、「オーダー数」と「納期遵守数」が決まれば自動的に計算されるので、データドライバに含める必要はありません。

データドライバ

名前	計算式
D order	Order.Records.Select([Operation.Is Assigned])
D 品目	\$order.Item
D 出荷先	\$order.Spec('出荷先')
D オーダー数	1
D 納期遵守数	<code>\$order.Operation.ManufactureEndTime &lt;= \$order.Late...</code>

5. データドライバが上図のように設定されているのを確認して、

OKを押して「評価データ生成定義」画面を閉じ、評価データを生成します。

# ルールを変えて評価データを確認しよう

タブを切りかえて、データキューブビューワー「オーダー集計」を開きます。

データキューブビューワーの右上にある[値]のリストで、表示するフィールドを切り替えることができます。

「オーダー数」の他に「納期遵守数」「納期遵守率」を選べます。

「納期遵守率」に切り替えてみると、

いまスケジューリングルール(step5)では納期に遅れているオーダーが1つもないため、納期遵守率は全て 1 と表示されています。

	製品A	製品B	製品C
国内	1	1	1
JP	1	1	1
国外	1	1	1
US	1	1	1
FR	1	1	1

別のスケジューリングルールでの結果も見てみましょう。

「スケジューリングパネル」の「step1 - 作業主導: 納期順」を右クリックして、「このルールでリスケジュール」を選びます。

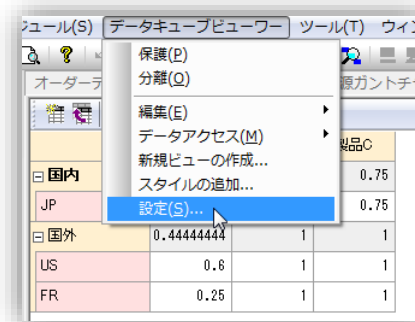
「プロジェクトパネル」→「評価データ」→「オーダー集計」の上で右クリックして、「評価データ生成」を選びます。

データキューブビューワーの値が更新されました。

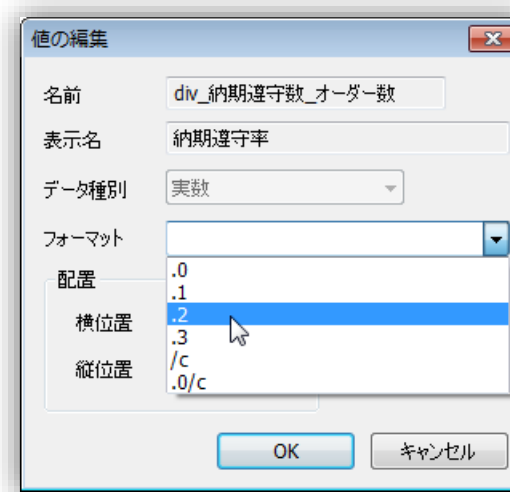
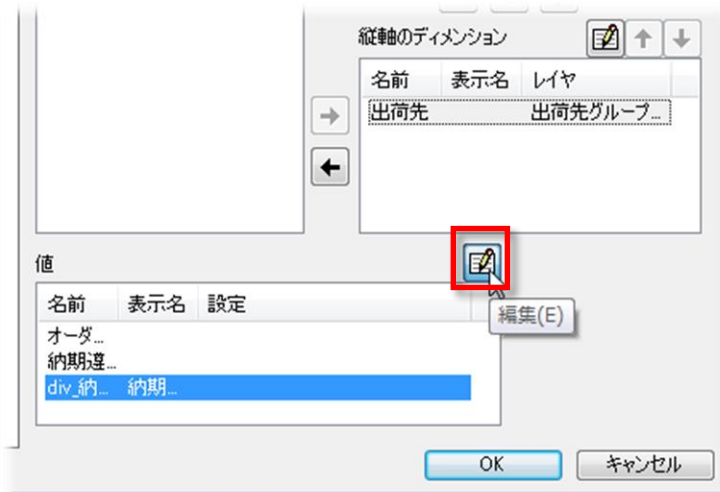
# フォーマットを指定しよう

いま納期遵守率の表示は、割り切れる値、そうでない値の間で統一がとれていません。  
小数点第二位までの表示に揃えましょう。

1. メニューの「データキュービューワー」→「設定」から、「ディメンション」画面を開きます。



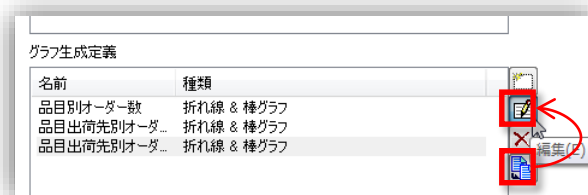
2. [値]の枠の中にある、「納期遵守率」の行をダブルクリックして[値の編集]画面を開き、[フォーマット]を[.2]に設定してください。  
これで小数点第二位まで表示されるようになります。  
OKを押して画面を閉じます。



# グラフを生成しよう 3

それでは、このデータキューブをもとに、グラフをつくりましょう。  
 今までのグラフに加えて、納期遵守率を折れ線グラフで描きます。  
 また、オーダー数は、品目出荷先別の個別の棒だけでなく、品目ごとに全出荷先を足し合わせた棒も表示させるようにします。

1. アンサンブル設定の「評価データ」から、グラフ生成定義「品目出荷先別オーダー数」を複製し、編集します。



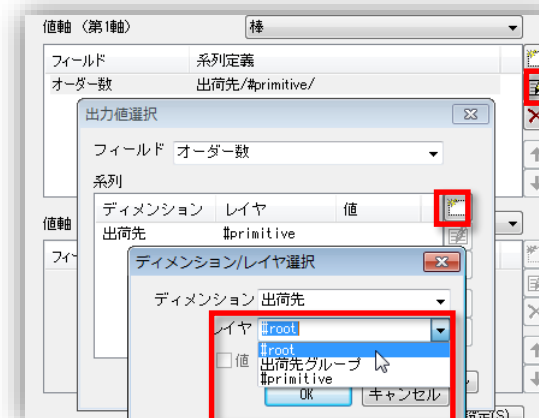
[生成定義名]と[タイトル]を「オーダー数、納期遵守率」に変えてください。



まず、品目ごとに全出荷先を足し合わせた、オーダー数の棒グラフを追加しましょう。

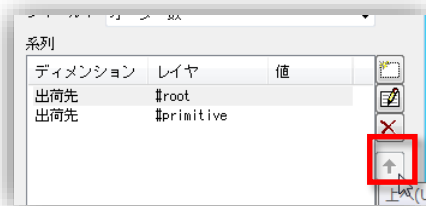
2. [値軸 (第1軸)]の「オーダー数」の編集ボタンを押します。  
 次に、系列の追加ボタンを押します。  
 [ディメンション]として「出荷先」を選び、[レイヤ]に[#root]を指定します。  
 (※ [#root]とは、ディメンションの最上位レイヤ、つまりディメンションの各メンバーを集計した全体のことです。)

OKを押して「ディメンションレイヤ選択」画面を閉じます。



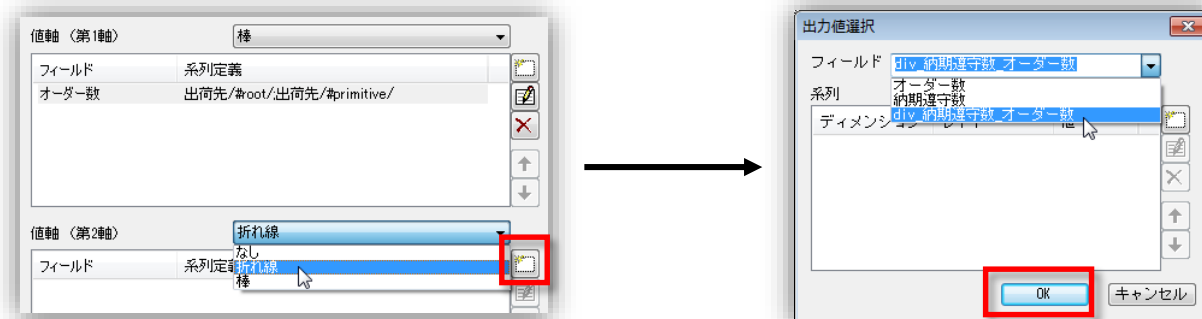
# グラフを生成しよう 3

3. [↑]ボタンを押して、レイヤ[#root]をレイヤ[#primitive]の上へ移動させます。  
これにより、グラフを生成したときに、レイヤ[#root]がレイヤ[#primitive]よりも先に表示されます。  
OKを押して「出力値選択」画面を閉じます。



次に、納期遵守率を折れ線グラフに表示させましょう。

4. [値軸(第2軸)]を「なし」から「折れ線」に変えて、追加ボタンを押します。  
フィールドを「div\_納期遵守数\_オーダー数」(納期遵守率のこと)とし、OKを押して「出力値選択」画面を閉じます。

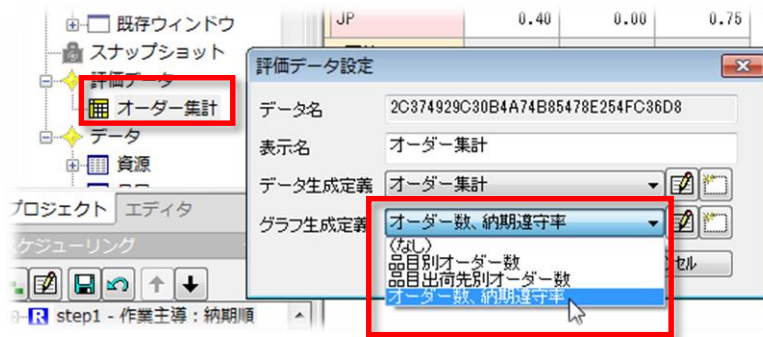


「完了」を押してグラフ生成定義を終えてください。  
そのままOKを押して、「アンサンブル設定」画面を閉じます。

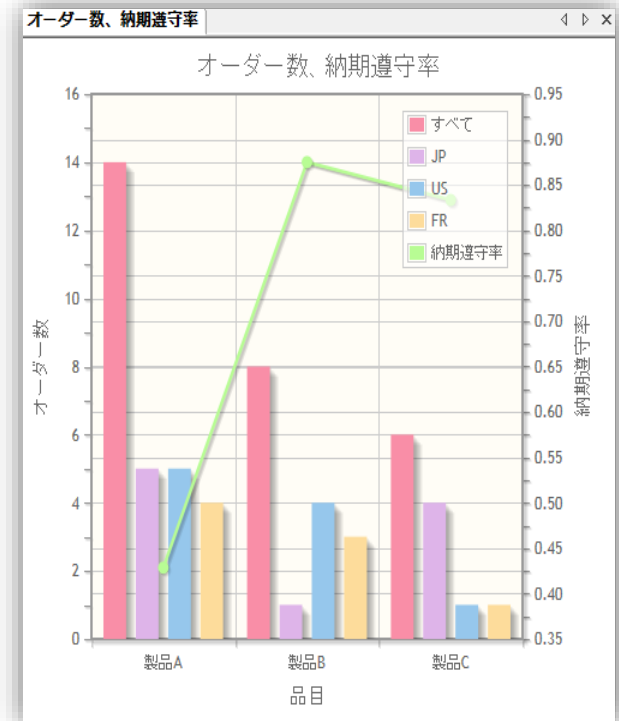
# グラフを生成しよう 3

それではグラフを生成しましょう。

5. 「プロジェクトパネル」→「評価データ」→「オーダー集計」の上でダブルクリックします。  
[グラフ生成定義]を「オーダー数、納期遵守率」に変え、OKを押して画面を閉じます。



「グラフを生成しますか？」に「はい」と答えて、グラフを生成します。  
オーダー数を棒グラフ、納期遵守率を折れ線グラフとしたグラフが表示されました。  
オーダー数は、出荷先別のものだけでなく、品目ごとに「すべて」という棒グラフも追加されています。

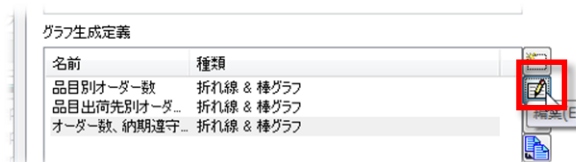


# グラフのビジュアル設定をしよう

しかし、このグラフは縦軸の目盛が混在していてあまり見やすくありません。  
グラフの「ビジュアル設定」を調整して、より良いグラフにします。

具体的には、縦軸の右側に表示されている納期遵守率の目盛を、  
0から1まで、0.25刻みで表示させればすっきりしそうです。

「アンサンブル設定」画面→「評価データ」から、  
グラフ生成定義「オーダー数、納期遵守率」の編集ボタンを押します。



「グラフ生成定義」画面の下方にある、「ビジュアル設定」ボタンを押します。  
「Visual Settings」画面が開きます。

※この設定画面では、グラフ描画のために使用しているプラグインのパラメタを設定します。  
[ヘルプ]ボタンでプラグインのWebページにジャンプできます。

※FLEXSCHEオンラインマニュアルの「グラフ生成定義 ビジュアル設定」にも説明があります。

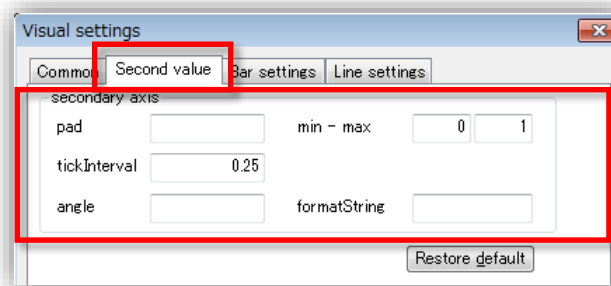
第2軸に関する設定なので、[Second value]の画面で設定を行います。

[Second value]の[min-max]に、[0][1]と入力してください。

これで第2軸は、0から1までの範囲で表示されます。

続いて[tickInterval]に[0.25]と入力します。

これで目盛が0.25刻みになります。

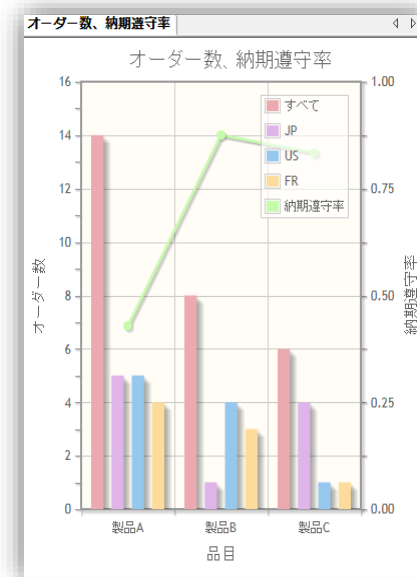
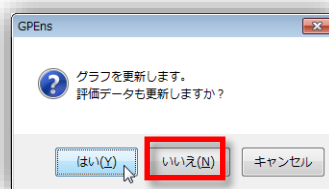
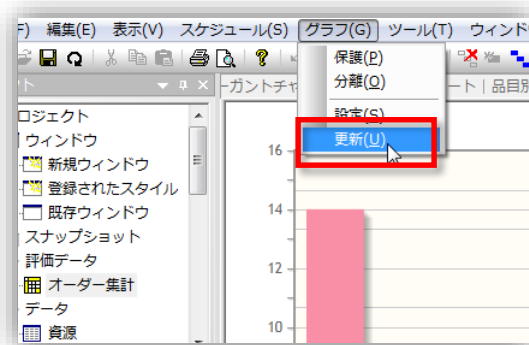


# グラフを更新しよう

OKを押して「Visual settings」画面を閉じます。  
「完了」→「OK」で「アンサンブル設定」画面を閉じます。

グラフの描画を更新しましょう。

メニューの「グラフ」から「更新」を選びます。  
「グラフを更新します。評価データも更新しますか？」と聞かれます。  
今回は評価データに変更を加えていないので、「いいえ」でよいです。



これでグラフが更新されました。

以上で、この入門ガイドの目標であった、

■それぞれの品目ごとと出荷先ごとに、オーダーの数がいくつあるのか。

また品目ごとと出荷先ごとの納期遵守率がいくつであるかを可視化し、それらをグラフで表現することを達成できました。

FLEXSCHE Analyzer 入門ガイド Version 14.0

2014年 6月 発行

株式会社フレクシェ

〒108-0075 東京都港区港南二丁目4番8号大島ビル5階

TEL: 03-6712-9549

FAX: 03-6712-9539

E-Mail: info@flexsche.com

URL: <http://www.flexsche.com/>

本マニュアルの著作権は、株式会社フレクシェにあります。株式会社フレクシェの文書による承諾を得ずに、電子的、機械的、光学的またはその他のいかなる形や手段によっても、本書の一部または全部を無断で複製、翻訳、伝送、写本することはできません。

本書の内容は、予告なく変更されることがあります。

